

富山大学 工学部 TOYAMA OWARA UNION OWARA SEARCH

平成29年7月から12月に開催された第4回G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクールで入賞された研究室等のみなさんが受賞アンケートに答えていただきました。富山大学工学部TOYAMA OWARA UNION様から御提案いただいた「OWARA SEARCH」は、奨励賞を受賞されました

■受賞されて反響はありましたか？ ■

大学のホームページに自分たちの名前が載り、有名人になったのだなと思いました。

また、教員方や友人に入賞を祝ってもらい、自分たちの頑張りが認められて嬉しい気持ちになりました。大規模な大会で賞を頂いた経験はあまりないので、やり遂げた思いでいっぱいです。



■今回発表したアイデアのきっかけをお聞かせください ■

おわら風の盆に行った時、町流しが行われている場所が分からなくなりました。さらに、トイレに行きたくなった際にどこにトイレがあるのか分からず、見つけたとしても混んでいてすぐに入れませんでした。これを不満に思い、トイレの場所・混み具合を気軽に調べられる策はないかと思ったのがきっかけです。

■アイデアをまとめるうえで一番苦労されたのはどのようなことですか？ ■

プレゼン資料作りにおいて、他人に伝わりやすいように図を多めに使ったのですが、逆に文字が不足してしまったので、そのバランス調整が難しかったです。また、費用計算で苦労したこととして、サーバやLPWA端末の値段・維持費用がどのくらいかかるのかについてあまり知識がなかったので、IoTを研究している先生に相談したりしました。

■アイデアは今後どのように進めていくかお考えはありますか？ ■

最終的には、おわら風の盆において私たちのアイデアを適用できればと考えています。

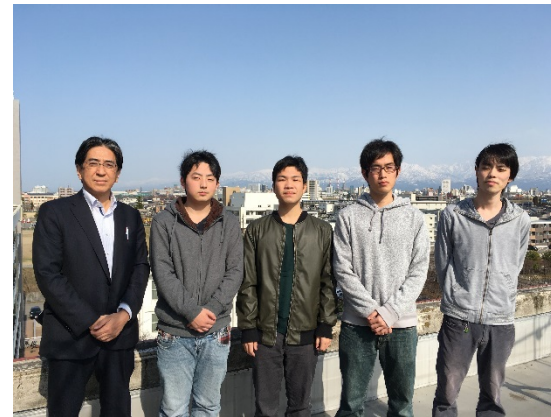
堀田研究室で行われているIoTの研究を参考にして、まずはトイレの出入りを分析する手法を研究し、トイレのデータ収集に役立てたいです。

■後輩の皆さんに期待することは？ ■

私たちの提案では、「おわら風の盆」という八尾町の行事を活かした提案をしました。

後輩の皆さんにも、地域の特色（祭りなどの行事、農業、etc.）を生かしたアイデアを出してくれればと考えています。それによって、地域へ貢献することを期待しています。

■その他コンクール全体を通して感想などあれば、お聞かせください ■



学外でプレゼンすることはあまりなかったのが不安でしたが、堀田教授と何度も相談してアイデアをまとめたり、チームで役割を分担したことによってプレゼンを仕上げることができました。今回はおわら風の盆に限定しましたが、他の行事にもこのアイデアは応用できると思います。今回の経験を、今後社会に出た時の問題解決に役立たせたいです。

富山大学 工学部 TOYAMA OWARA UNIONのみなさんありがとうございました

小松短期大学 島内研究室 スマートクルーズカード：乗船カードの機能拡張を通じた寄港地観光の活性化

小松短期大学 島内研究室様から御提案いただいた「スマートクルーズカード：乗船カードの機能拡張を通じた寄港地観光の活性化」は、北陸総合通信局長賞を受賞されました

■受賞されて反響はありましたか？ ■

小松短期大学においては、同コンクール初入賞とのことで、普段お世話になっている先生方からお祝いの言葉を頂きました。また、1次審査を突破した時点で反響があり、皆様より応援をいただいた事が大きな力となりました。

私達としては、普段お世話になっている小松短期大学、並びに先生方への感謝を形にできて良かったと感じます。



■今回発表したアイデアのきっかけをお聞かせください ■

観光資源について取り扱うことが研究室の方針として決定し、GPS、RFIDなど、私たちが興味のある技術の適用先を模索した結果、クルーズ観光がテーマとして最適だと判断しました。

私達は船旅の経験が無く、クルーズ観光をしたことがある友人などに話を伺い、その魅力と、不便を感じた点を参考に対策を考えていきました。

■アイデアをまとめるうえで一番苦労されたのはどのようなことですか？ ■

通信技術をメインに対策を考案していく中で、本来のターゲットである旅行客の手間がどんどん増えてしまい、利用者側の視点に立つことの重要性を痛感しました。アイデアを考案する際にありがちな落とし穴ではありますが、システムの全体最適を考える事は良い経験となりました。

■アイデアは今後どのように進めていくかお考えはありますか？ ■

今回発表のために学んだ技術の中でも、特にRFIDは産業利用が進んでいます。現在は数値の塊としてのデータが簡単に手に入る時代ですが、IoT技術の課題である、それらデータの管理・解析手法についても十分に学び、今後の活動に励みたいと考えます。

■後輩の皆さんに期待することは？ ■

こうして自由にアイデアを提案し、それを評価していただける場というものはとても貴重なものです。参加を考えているのであれば理屈っぽくならず、ある意味無責任に、そして真剣に取り組んでほしいと思います。

■その他コンクール全体を通して感想などあれば、お聞かせください ■



会場の雰囲気は温かく、良い提案の場だったと感じます。各研究室のメンバー以外からも質問・意見が寄せられ、堅苦しさを感じなかったのも、参加者としては有難い空間でした。

今後も同コンクールで闊達なアイデアが飛び交うことを期待しております。

小松短期大学島内研究室のみなさんありがとうございました

金沢学院大学 今西 陽 氏 スマートフォン向け～マラソン×G 空間アプリ ～ Runner's Circle

金沢学院大学 今西 陽さんから御提案いただいた「スマートフォン向け～マラソン×G 空間アプリ～ Runner's Circle」は、G空間×ICTグランプリを受賞されました

■受賞されて反響はありましたか？■

仲の良い友人や家族から「おめでとう！」と言ってもらえました。

また、新聞や大学HPを通して知ってくださった一部大学関係者の方からも声をかけていただきました。

何より私自身の心情の変化を大きく感じます。自分のアイデアが認められ、プレゼンテーションが成功した経験は、今日も何かに挑戦するとき背中を押してくれます。



■今回発表したアイデアのきっかけをお聞かせください■

普段から「こんなアプリやゲームがあったら楽しいのではないか」といった妄想はしていました。ランナーズサークルも元々はそんな妄想から生まれたアイデアだったと言えます。

YOUTUBEみたいに、利用者同士である種の文化を作っていくような、そんな土壤を与えられるようなアプリを想定していった、位置情報と絡めるならマラソンかなといった感じで徐々に形になっていきました。

また、新しい技術よりもGPSなど既に浸透している技術を使おうと心掛けました。

■アイデアをまとめるうえで一番苦労されたのはどのようなことですか？■

提案書を書くときは、ストックしてあったアイデアを書き出すだけだったのでスラスラまとめられた記憶があります。しかし、最終選考ではより実現性や将来性を求められるので、独りよがりな提案ではダメだなと感じ、考え方を変えてブラッシュアップを進めました。その点では悩まされたと思います

そんな時に他者の意見が助けになりました。ゼミの教授や友達にプレゼンをして意見を求めましたが、一人では気づけなかった点に気づくことができました。

■アイデアは今後どのように進めていくかお考えはありますか？■

もしアプリを実際に企業、自治体、大学の方々と協力して世に出すとすると、ただ自分の要望を通せばよいというわけではなく、ある時には妥協が必要だったり、お金や法律が絡む場面では知識が求められたりと、今までとは違った能力も必要になってくると思われます。

まずはアプリ作りにおけるノウハウやサーバ、プログラミングに関する知識も足りないので、勉強が必要だなと感じています。

■後輩の皆さんに期待することは？■

何かアイデアが浮かんでも、それを実践する人はとても少ないと思います。私も今回のような機会がなければ、ただの妄想で終わっていたかもしれません。

ちょっと面白いなと思ったら、その気づきを大事にしてほしいなと思います。共感してくれる人がきっといるはずです。



■その他コンクール全体を通して感想などあれば、お聞かせください■

コンクールでは、約半年の間多くの人達に支えられましたし、これからももっとお世話になると思います。行き詰ったとしても一緒に乗り越えられるように、もっと人との繋がりを大事にしながら、アプリについても取り組んでいきたいですね。

今西様、ありがとうございました

福井工業高等専門学校 小越研究室 快適なバリアフリーツアーのためのガイドマップ アプリ「さぼっち」

■受賞されて反響はありましたか？■

研究室を選んでいる後輩たちに、コンクールのポスターや頂いた景品などについて尋ねられました。提案したシステムを紹介すると興味を持ってきて、支援システム開発に関わる後輩が増えたと思います。

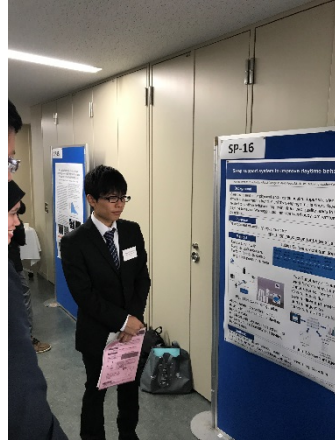
■今回発表したアイデアのきっかけをお聞かせください■

私たちは障害者のための支援システムを開発しています。実際に様々な方とお会いする中で、私たちが気にせず過ごしている地域の中でも不便があることがわかりました。

今年は福井で障害者スポーツ大会が、2年後には日本で東京パラリンピックが開かれます。今地域で過ごしている方々に加え、全国、全世界からやってくるたくさんの方々も地域で快適に過ごしてほしいと考え、障害者のためのシステムを開発しようと考えました。

■アイデアをまとめるうえで一番苦労されたのはどのようなことですか？■

障害者のための地図システムにしよう、と初めに決めましたが、具体的にどのようなシステムにしようか迷いました。先生やメンバーと話し合い、どのような情報を知りたいか、分かりやすく表示するためにはどうすれば良いかとアイデアを煮詰めていきました。



福井工業高等専門学校 小越研究室から御提案いただいた「快適なバリアフリーツアーのためのガイドマップアプリ「さぼっち」」は、奨励賞を受賞されました

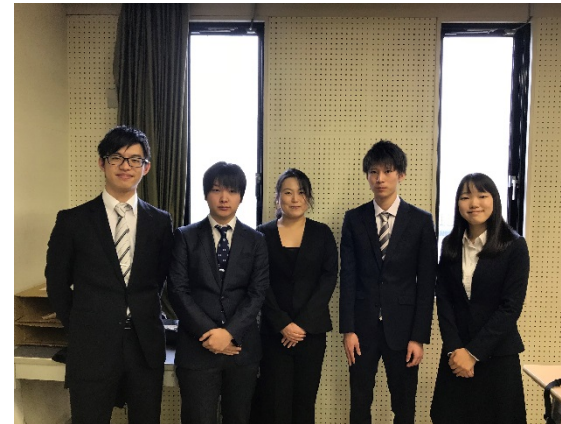
■アイデアは今後どのように進めていくかお考えはありますか？■

提案したシステムは地図にマークを登録するという単純なシステムなので、まず学校で学んだ知識を使ってプロトタイプを開発したいと考えています。また、提案した際に鯖江市の方にも声を掛けていただいたので、市とも協力してアプリを開発していきたいです。

■後輩の皆さんに期待することは？■

私たちの研究室は今年初めて、このコンクールに応募しました。提案資料の作成は大変でしたが、とても自分のためになったと感じています。後輩たちにも今後続けて福祉関係の地図システムを提案して、皆にやさしい街づくりを進めてほしいです。

■その他コンクール全体を通して感想などあれば、お聞かせください■



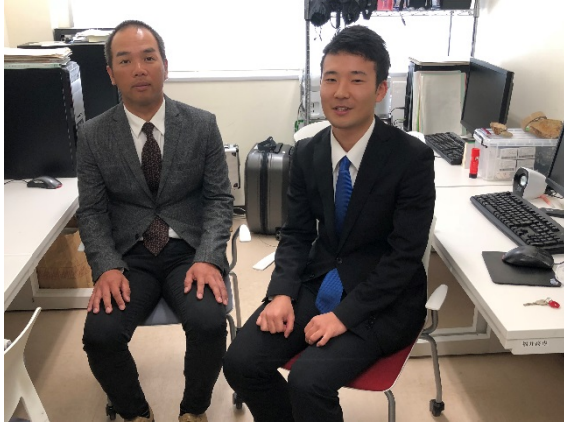
システムの提案を通じて、障害者が感じる便利や不便を知ることができ、これまで以上に障害について学ぶことができました。また他の提案についても地図を使ってより便利に、という点は変わらないと思うので、G空間の技術を用いてよりやさしい街を目指して行ってほしいです。

福井工業高等専門学校 小越研究室のみなさんありがとうございました

福井工業高等専門学校 空間情報工学研究室 ドローンによる水田モニタリング ～おいしいお米をつくろう！～

■受賞されて反響はありましたか？■

ありました。家族や同級生の友人がお祝いの言葉をかけてくれました。また、それだけでなく、どういう研究をしているのかなどのやりとりを交わすことができ、多くの方に今取り組んでいる研究について知ってもらうことができました。



■今回発表したアイデアのきっかけをお聞かせください■

辻野研究室ではこれまで様々な研究をしてきましたが、ドローンを使ってなにか新しい研究をしたいと考えていました。また、学校内で、農業と工業が連携する農工連携に取り組もうという働きがありました。そこで、農業の分野にドローンを活用できないかと考え、水田のモニタリングをやってみようということになりました。

■アイデアをまとめるうえで一番苦労されたのはどのようなことですか？■

やはり、どのようにしてビジネスに繋げていくか、どうすれば実用化できるかを考えるのが大変でした。考えれば考えるほど、足りない部分や必要なことが見えてくるようになりました。

福井工業高等専門学校 空間情報工学研究室（辻野研究室）から御提案いただいた「ドローンによる水田モニタリング ～おいしいお米をつくろう！～」は、シビックプライド賞を受賞されました

■アイデアは今後どのように進めていくかお考えはありますか？■

私は専攻科に進学するので、あと2年間研究することができます。改善すべき点があったので、今回のアイデアをさらにより良いものへとブラッシュアップしていきたいと思います。

■後輩の皆さんに期待することは？■

本研究はもちろん、これまでトライアルコンクールに応募してきた研究において、さらに研究を進めてもらいたいです。そしていつか、辻野研究室からグランプリを受賞できるようなアイデアが生まれてくることを期待しています。

■その他コンクール全体を通して感想などあれば、お聞かせください■

今回コンクールを通じて、研究内容についてしっかりと向き合うことができ、考えを深めることができました。また、アイデアをまとめることや発表することで私自身のスキルアップにも繋がったと思います。貴重な体験をすることができました。ありがとうございました。

福井工業高等専門学校 空間情報工学研究室（辻野研究室）のみなさんありがとうございました